

クルマの本質を追い求めた、新しい乗用車の創造。

お客様がクルマを選ぶ時の基準は、実に様々といえます。

でも多くの方が、それぞれのライフステージや

ライフスタイルに合わせてクルマを選んでいるのではないのでしょうか。

もし、ライフステージやライフスタイルに左右されずに選べるクルマがあったら、

より豊かで、深みのあるカーライフを楽しむことができるのではないだろうか。

このような想いを胸に、私たちは新しい乗用車の創造にチャレンジしました。

めざしたのは、幅広い世代に受け容れられながら、個人個人の嗜好性にも応えるクルマ。

それを具現化するためには、もともとクルマが備えている本質的な価値である

Emotional(スタイリングや走り)とFunctional(居住性や使い勝手)という

相反する要素を高次元で両立することが重要だと考えました。

既成概念に縛られない自由な発想と

M・M思想*をもとに育ててきたパッケージング技術のすべてを注ぎ込み、

EmotionalとFunctionalのより高いレベルでの融合を徹底追求しました。

そして、セダンでもミニバンでもない、新しい乗用車ジェイドを完成させました。

世代や趣味を超えて、幅広いお客様にご支持いただくことができれば、

開発者としてこれ以上の喜びはありません。

開発責任者 印南 泰孝



印南 泰孝 (いんなみ やすたか)

(株)本田技術研究所 主任研究員

1985年、(株)本田技術研究所入社。1990年より初代ドマーニのPL、シビックのPLを担当。1996年、軽シリーズトータルでのLPL代行としてZを開発。その後、LPL代行としてシビック、アコードの開発に携わり、2003年よりアメリカに駐在。帰国後、ストリーム/LPLを担当し、今回ジェイドのLPLを務める。

*「M・M思想」とは、「人のためのスペースは最大に、メカニズムは最少に(マン・マキシマム/メカ・ミニマム)」という、「人」が中心の発想で取り組むHondaのクルマづくりの基本思想。